2020.8.25 企業と地域の協働セミナー

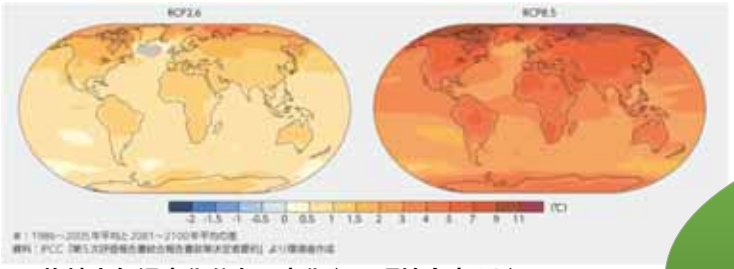
環境省

新しい社会を考える地域循環共生圏づくり
―ローカルSDGs―

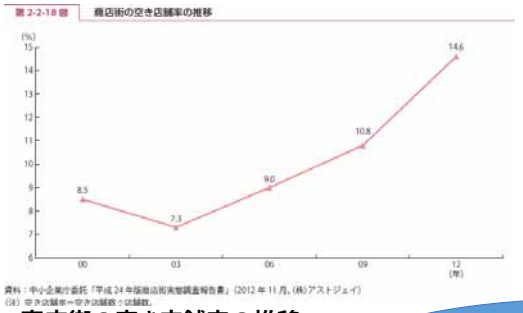
環境省関東地方環境事務所
地域循環共生圏構想推進室　速水　香奈

我が国が抱える環境・経済・社会の課題の同時解決

環境省



平均地上気温変化分布の変化（H29環境白書より）

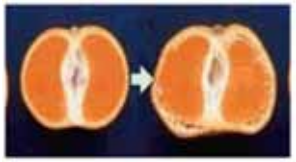


商店街の空き店舗率の推移
（中企庁HPより）

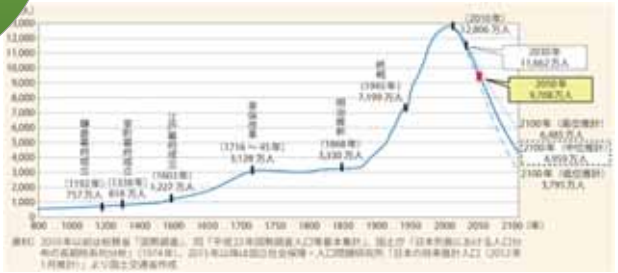
環境の課題

○温室効果ガスの大幅排出削減
○資源の有効利用
○森林・里地里山の荒廃、野生鳥獣被害
○生物多様性の保全
など

ニホンジカによる被害
（環境省HPより）



高温によるミカンの浮皮症
（H30環境白書より）



我が国人口の長期的推移
（国交省HPより）

相互に連関・複雑化

経済の課題

○地域経済の閉塞感
○新興国との国際競争
○AI、IoT等の技術革新への対応
など

社会の課題

○少子高齢化・○人口減少
○働き方改革
○気候変動による災害激甚化への備え
など

人工知能のイメージ（産総研HPより）

環境・経済・社会の
統合的向上が求められる！

H29年7月九州北部豪雨
（国交省HPより）

第五次環境基本計画の基本的方向性

環境省

目指すべき社会の姿

1.「地域循環共生圏」の創造。

※　各地域がその特性を活かした強みを発揮
→　地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
→　地域の特性に応じて補完し、**支え合う**

2.「世界の範となる日本」の確立。

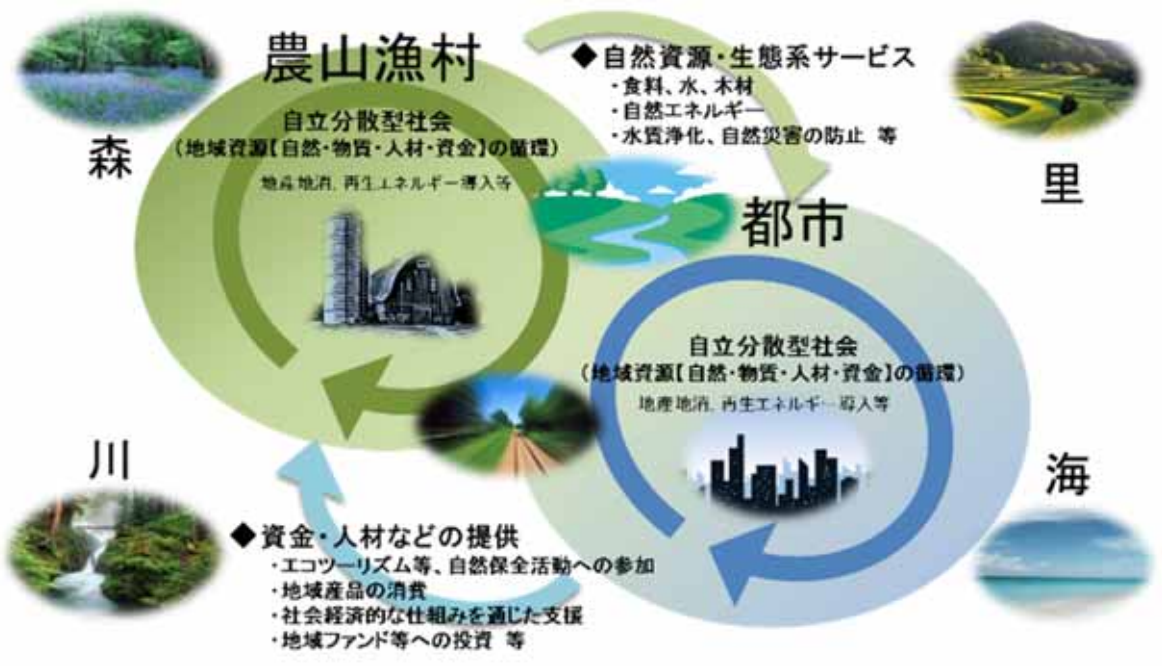
※　①　**公害を克服**してきた歴史
②　優れた**環境技術**
③「もったいない」など**循環**の精神や自然と**共生**する伝統を有する我が国だからこそできることがある。

3.これらを通じた、持続可能な循環共生型の社会（「環境・生命文明社会」）の実現。

✓あらゆる観点からイノベーションを創出
✓幅広いパートナーシップを充実・強化

生活の質を向上する「新しい成長」を目指す

地域循環共生圏



地域循環共生圏の構築に向けて

環境省

低炭素・資源循環・自然共生

地域

自立分散型社会

（地域資源【自然・物質・人材・資金】の循環）

地産地消、再生エネルギー導入等

資金の循環
三方よし基金
（東近江市）

流域人材の育成
高梁川流域学校
（高梁川流域）

自然資本の再生
椹野川自然再生協議会
（山口県椹野川流域）

２地域の再エネ連携
（東北12市町村･神奈川県横浜市）

資源の循環
廃棄物堆肥化と
ブランド化
（鹿島市）

エネルギーの循環
薪ボイラーの導入
（南砺市）

大学との連携による
人材確保
（徳島県小田原市）

民間企業との連携
宗像国際環境100人会議
（宗像市）

地域循環共生圏

２地域の交流強化
（大阪府吹田市･能勢町）

都市部など地域外

◆自然資源・生態系サービス

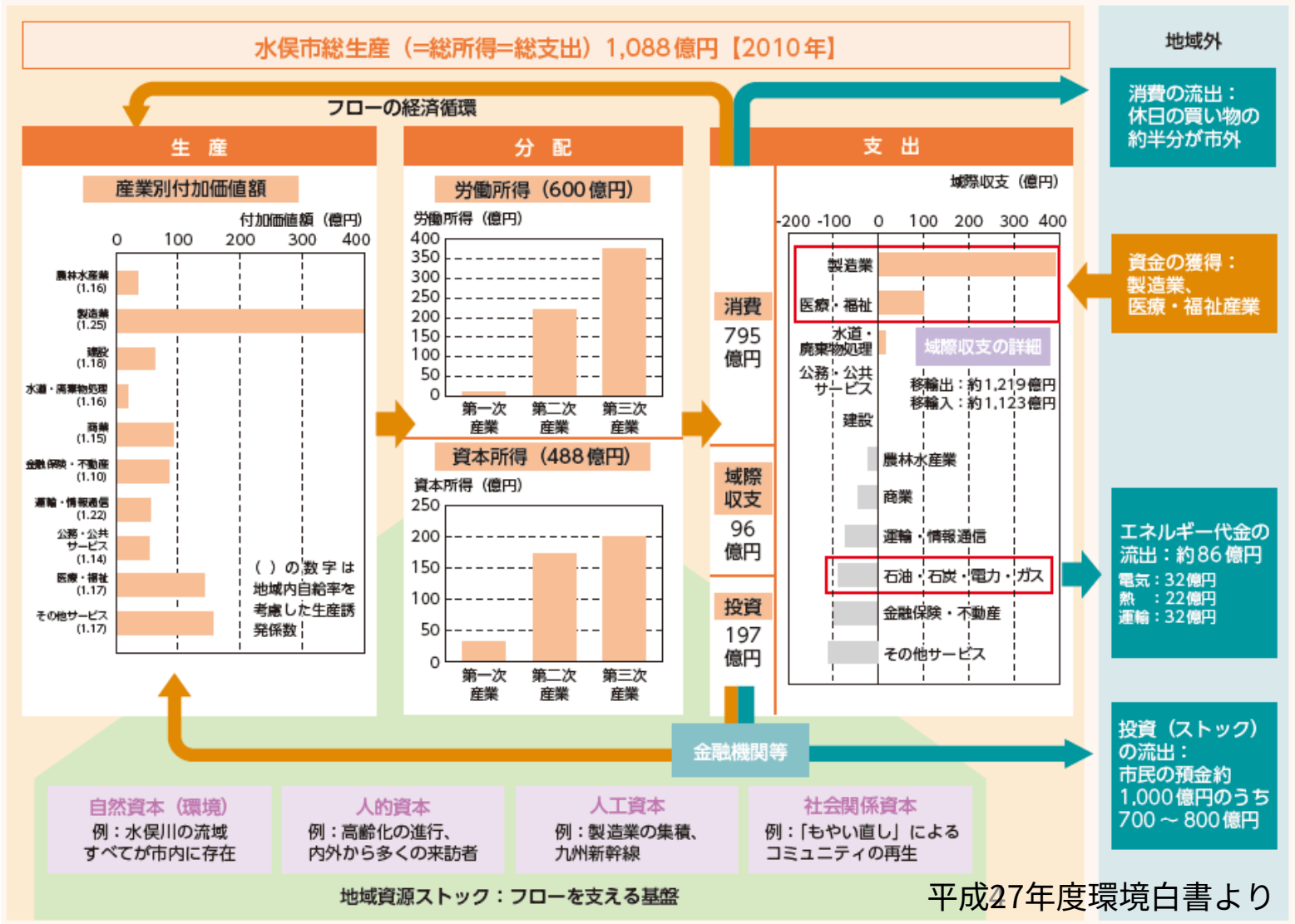
環境配慮型産品の
販売促進
コウノトリレンコン
（徳島県吉野川流域）

国際認証産品の
販売促進
（南三陸町）

◆資金・人材などの提供

地域経済循環分析

- 「生産」「分配」「支出（消費、投資、域際収支）」の資金の流れを、循環構造に沿って見ることで、地域の「強み」と「課題」を定量的に明らかにする「地域経済循環分析」※
- １８００自治体分の地域経済循環分析用データベースを構築し、HPで公開中。



平成27年度環境白書より

地域経済循環分析用データベース→http://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html

「地域循環共生圏」の概念

地域循環共生圏

＝

資源を循環利用して持続する**「自立」した地域が、相互に連携し機能**する。

地域の特性、地域資源の性質に応じ、**最適な規模で地域資源が循環**する。

- 狭い地域での循環に適した資源
  ⇒コミュニティや自治体レベルの小さな領域で循環
- 広い地域での循環に適した資源
  ⇒河川流域、都道府県、国など地域を越えたより広い領域での循環

地域循環共生圏（日本発の脱炭素化・SDGs構想）

－ サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から人と自然のポテンシャルを引き出す生命系システム －

Ver. 25

「自立分散」（「オーナーシップ」） × 「相互連携」（「ネットワーク」） × 「循環・共生」（「サステナブル」） = 活力あふれる「地域循環共生圏」 ⇒ 「脱炭素化・SDGsの実現、そして世界へ」（「人間の安全保障、次世代・女性のエンパワーメントを基盤に」）

➡ 新たな価値とビジネスで成長を牽引する地域の存立基盤

人々が健康で活き活きと暮らし幸せを実感することで、地域が自立し誇りを持ちながらも、他の地域とも有機的につながることにより、国土の隅々まで豊かさが行きわたる。

「オーナーシップ」と「ネットワーク」からなる生命系システム社会

地域循環共生圏

水の循環と調和する地域コミュニティ

安心と利便性で高齢者や子育て世代に優しい移動手段

地域の魅力を引き出す交通システム

「モノ消費」から「コト消費」へのシフトで健康と豊かさと楽しさを

ストックとしての豊かな自然とその恵みでグッドライフ

人に優しく魅力ある「交通・移動」システム

健康で自然とのつながりを感じる「ライフスタイル」

共感・感動創造（文化・芸術・歴史・スポーツ）

RE100工場・オフィス

防災インフラと自然の防災力の相乗効果

CASE（電動、シェアリング、自動、接続）

地域交通ビジネス（グリーンスローモビリティ、電動バス）

衣・食・住にわたるオーガニック・ビジネス（体に優しくおしゃれなオーガニック素材衣服）（自分と地球に優しいオーガニック・コスメ）（オーガニック農産物・水産物等の地産地消・産地直送）（地元材で人に優しくロングライフな住宅）（地元オーガニック産品で地域周辺街の活性化）

サステイナブルファッション

子育て・介護世代支援サービス

野遊び（地域の豊かな自然・景色・文化を味う）

地域経営型のエネルギービジネス 地域資源活用型観光ビジネス

地域課題解決型のビジネス（既存施設や耕作放棄地等の活用によるビジネス拠点化・観光資源化、地域教育・地域人材育成）

「知の源泉」となる地域の大学・高専・研究機関

気候変動影響による被害の回避・軽減（適応）

高齢者向け配車サービス

観光ビジネス（エコツーリズム、温泉、祭り、文化・歴史）

健康・未病ビジネス（地域包括ケアシステム、農福連携）

働きがいと生きがいを感じる仕事

暗黙知・技や地域価値の再発見（次世代育成・教育、世代間交流）

物流の地域拠点化・防災対応

場所を問わない働き方（テレワーク、VR、ワーケーション）

グリーンインフラ Eco-DRR

まちづくりと交通が統合され活気あるコミュニティ

資源循環ビジネス（廃棄物、食料、プラ等の先進的リサイクル）

適応ビジネス

災害に強い「まちづくり」

地域循環共生圏

多様なビジネスの創造

地域金融・ESG金融・地域ファンドによるビジネス支援

防災・景観・再エネのための配電網地中化

空き家・空きスペース活用

老朽インフラの活用・更新

再エネビジネス（風力）

地域間エネルギー流通ビジネス

新たなバリューチェーンの創造

再エネビジネス（バイオマス）

ソーラーシェアリング

原材料レベルへの還元をベースとする循環イノベーション

再エネ活用による防災・減災拠点整備

ZEH・ZEB

地域グリッドと基幹グリッド双方が支えるハイブリッド電力システム

電力アグリゲートビジネス

中小企業の環境経営

CO2の原料化

廃プラスチックからの再生

熱融通ビジネス

IoT活用による低炭素物流

再エネ熱ビジネス

配電・小売りビジネス

災害時でも安心感のあるインフラ・エネルギーシステム

廃棄物発電＆熱利用

蓄電池・水素貯蔵

再エネビジネス（太陽光）

クラスターEV充放電管理ビジネス

脱炭素を支える材料・製品供給

CO2フリーガスコジェネ

CO2フリーガス（水素メタネーション技術）

自律分散型の「エネルギー」システム

エネルギーの地産地消と地域間融通

地域再エネビジネスを支えるシステム

IoT等による経営資源・製品等の次世代流通網

日本の基幹ものづくり産業

イノベーティブなものづくり

デジタル技術による次世代・高品質 基幹送電網

「Society 5.0」と人の生産性向上が創る「地域循環共生圏」

IoT AI BIG DATA ロボティクス

5.0 超スマート社会 4.0 情報社会 3.0 工業社会 2.0 高度成長社会 1.0 狩猟社会

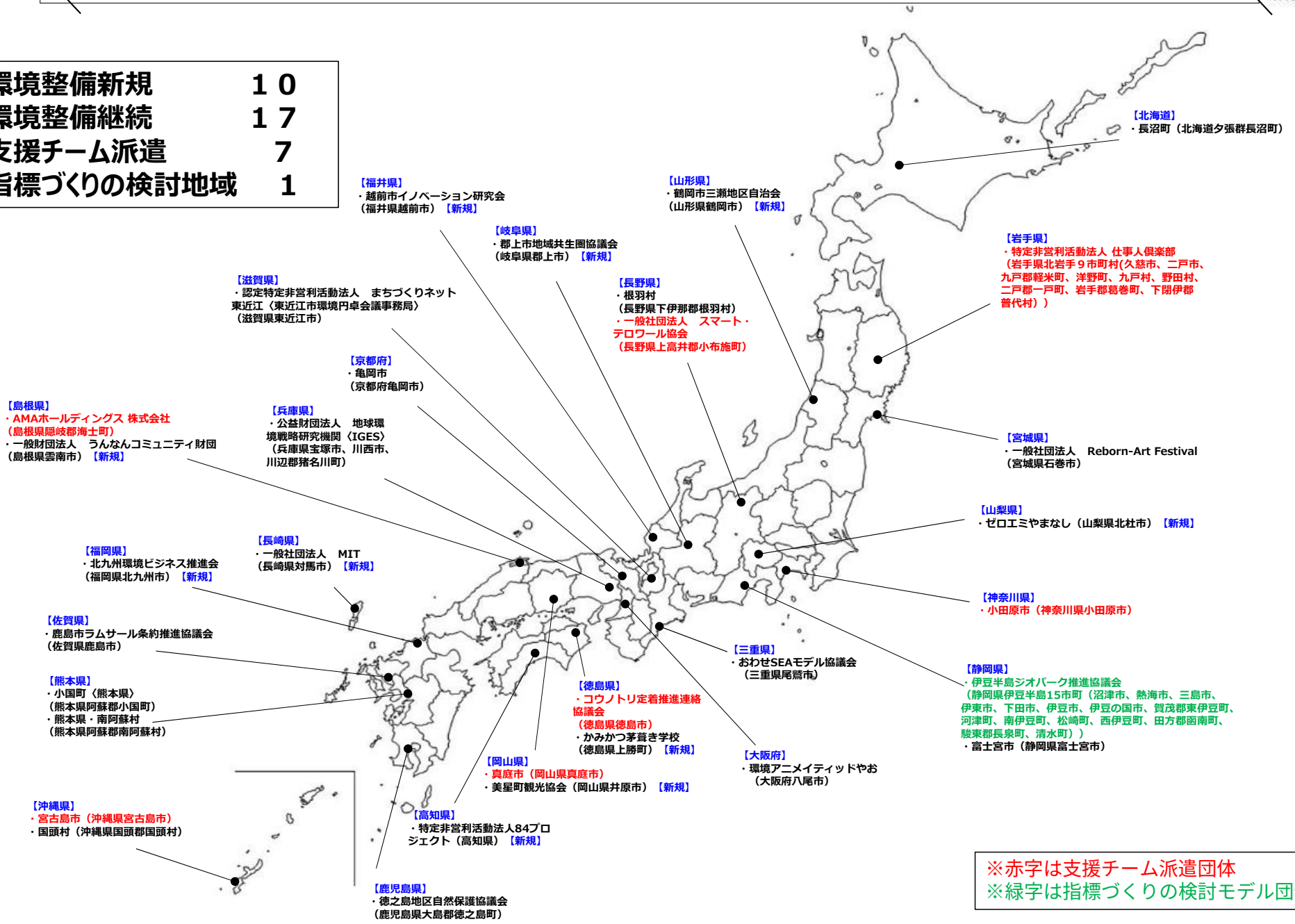
世界最先端・最高水準のグリーン製造プロセス

バイオマス CNF CLT バイオマスプラスチック

オーガニック素材をベースとする素材イノベーション

環境省

環境整備新規	１０
環境整備継続	１７
支援チーム派遣	７
指標づくりの検討地域	１



※赤字は支援チーム派遣団体
※緑字は指標づくりの検討モデル団体

環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業対象地域

地域循環共生圏づくりのアプローチ

環境省

従来のアプローチ		地域循環共生圏づくりのアプローチ
ビジョン →基本計画 ・課題解決型 ・分野別対応 ・フォア・キャスティング	⇔	**ビジョン** →マンダラ（コンセプトシート） ・価値創造型 ・包摂的・構造的対応 ・バック・キャスティング SDGsアプローチ
会議体 →協議会・検討会 ・合意形成 ・環境分野の専門家・市民	⇔	**会議体** →プラットフォーム・コンソーシアム ・協働（パートナーシップ） ・環境・経済・社会の各分野のプレーヤー ・コレクティブ・インパクト（学びあいと連携）
取組 ・規制 ・補助金 ・ボランティア	⇔	**取組** ・経済的な仕組みをともなった事業 ・同時解決
成果指標 ・環境分野	⇔	**成果指標** ・環境・社会・経済分野

今後の環境政策は両方のアプローチが必要

小田原市版曼荼羅

地域資源を磨き上げ、より豊かな状態で次世代へと受け継ぎ、生かしきる小田原

豊かな自然環境の保全

森里川海
ブランディング

デジタル
インフラの活用

地域資源の価値化

生態系
保全産品

地産カフェ

地域経済の好循環

体験型
ツーリズム

公民連携
イノベーション

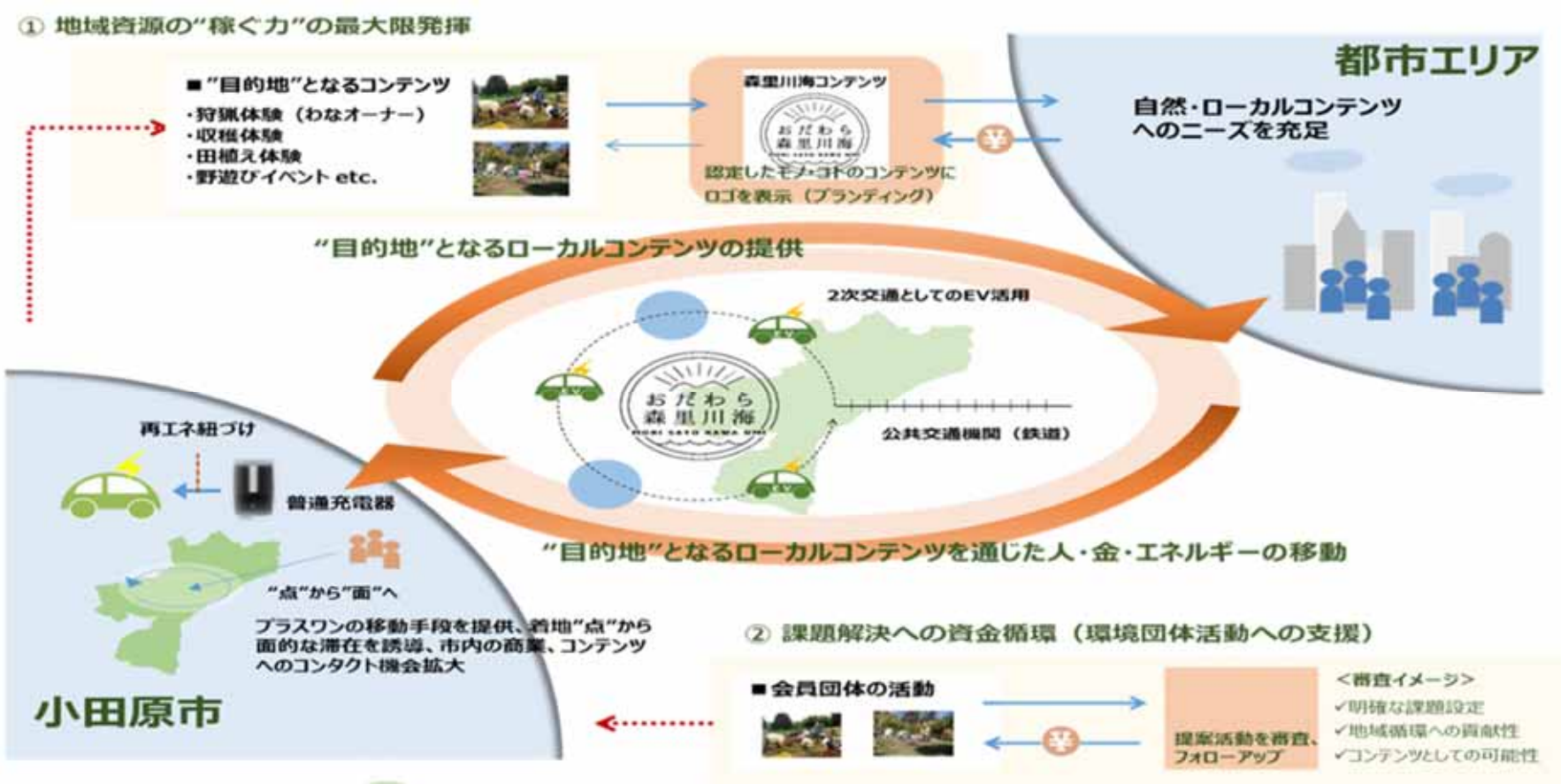
プラットフォーム
構築

新事業研究会

MaaS連携

コンテンツ
の集約

環境教育



脱炭素型
地域交通

再エネ
需要創出

竹林整備

フードロス
削減

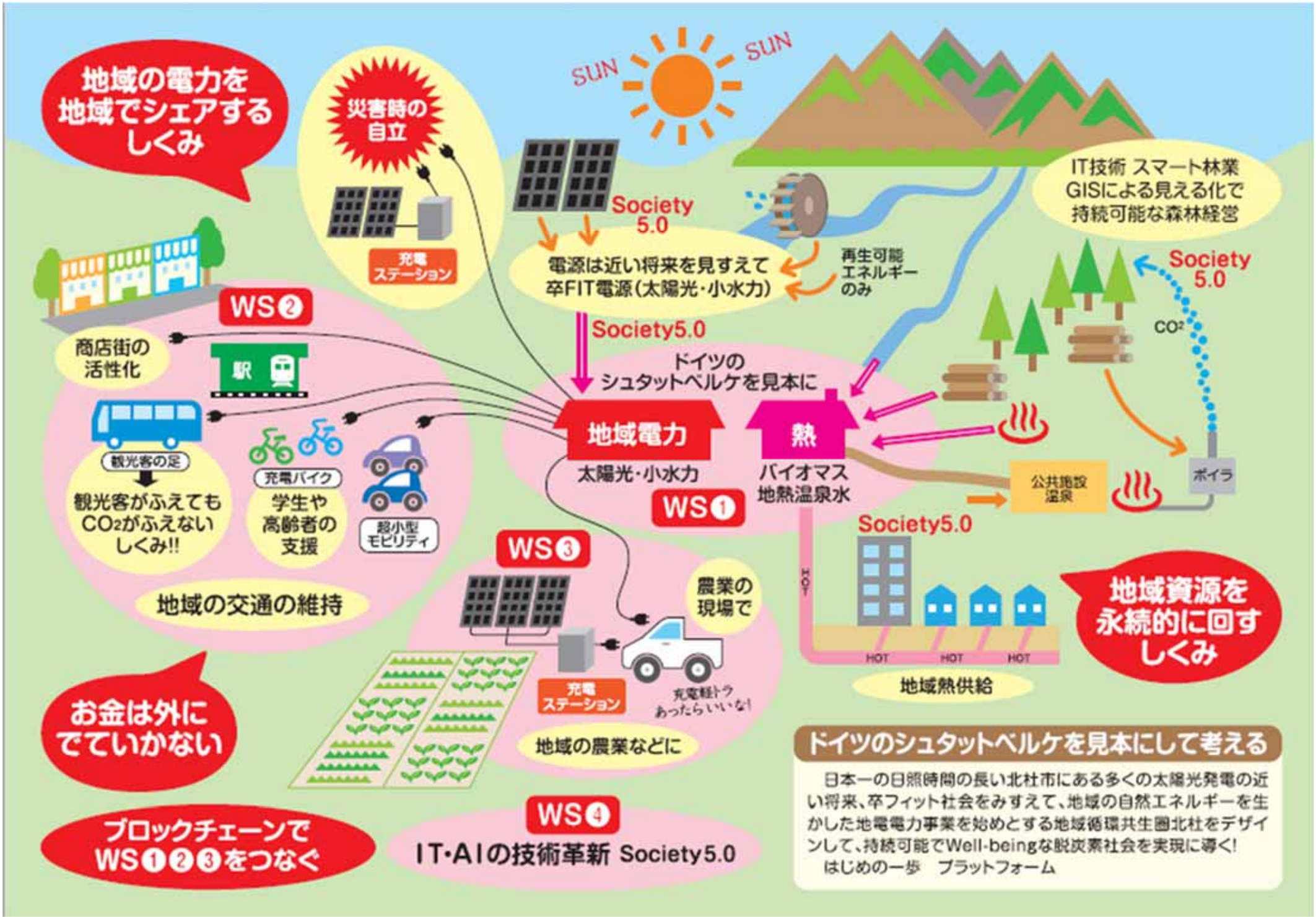
獣害対策

持続可能な地域社会モデル

担い手の育成

Eco-DRRへの貢献

（一社）ゼロエミやまなし（山梨県北杜市）の曼荼羅　※現在検討中



人・モノ・金・ワザをつなぐプラットフォームの立ち上げ

環境省

地域・自治体

企業・金融

地方環境事務所

環境パートナーシップオフィス（全国8カ所）

地域ビジネスづくり支援

- コンセプトづくり、パートナーシップの強化、ビジネスのタネ探し
- 支援チームの派遣
- 先進事例・支援事業の紹介等

ネットワーク強化

- 財務局と連携した地域金融機関・民間企業とのネットワーク構築
- ESG地域金融で地域ビジネスの実現へ

実践地域登録制度
74団体

マッチング・情報提供

全国

関係省庁

- 活用可能な支援事業の紹介
- 情報の共有
- フォーラム等への参加

地域づくり支援等の他のネットワーク

- 相補的機能を有するネットワークと連携
- 適切な機能分担
- 情報網の共有、イベントの共催など

ESG金融

- 地域におけるESG金融促進事業
- グリーンファンド
- 21世紀金融行動原則持続可能な地域WG

企業等登録制度

- 地域循環共生圏の実現を共に目指すパートナー企業等の登録を呼びかけ
- 技術・ソリューション単位でも登録可
- ESG経営の課題解決やビジネスのタネを生み出すオープンイノベーションの場として活用

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

環境省ローカルSDGsプラットフォーム

企業等登録制度の概要（6月26日開始）

環境省

目的

環境省ローカルＳＤＧｓの趣旨や目的に賛同していただける民間企業、協同組合、社団法人、財団法人、ＮＰＯ、金融機関（企業等）に登録してもらい、**地域と企業等の協業（＝事業）**により、**地域の課題解決とESG経営の実現**を推進し、**全国各地においてローカルSDGｓの創造を加速**させる。

制度の特徴

1．**ローカルSDGsビジネス※の実現に向けた知見や技術の提供**や**実践地域との交流**
- オンライン・オフラインにおけるマッチング支援
- 環境省が主催するシンポジウムや勉強会等の開催

2．**企業同士の学びあいやネットワークづくり**
- 地域循環共生圏フォーラムや企業間ワークショップ等の開催

3．**地域循環共生圏に関連した他省庁の情報提供や意見交換の場づくり**
- 定期的なメールマガジンの配信
- 環境省が主催するシンポジウムに他省庁も招へい

【※ローカルＳＤＧｓビジネスの定義】
①地域資源を活用し、地域内で資金、エネルギーや食などが循環している
②地域間で補完し支え合いの関係が構築できている
③環境を含むそれぞれの地域課題を解決し、自立分散型の社会づくりにつながる

地域×企業で目指すもの

1．**地域と企業の協業により、地域資源を生かしたビジネスが創発される**

2．**地域の魅力や産品を、企業がビジネスとして活用することで、全国に広がる**

3．**企業のESG経営を支える地域との関係が生まれる**
（再エネ導入、働き方改革、サプライチェーンのリスク分散など）

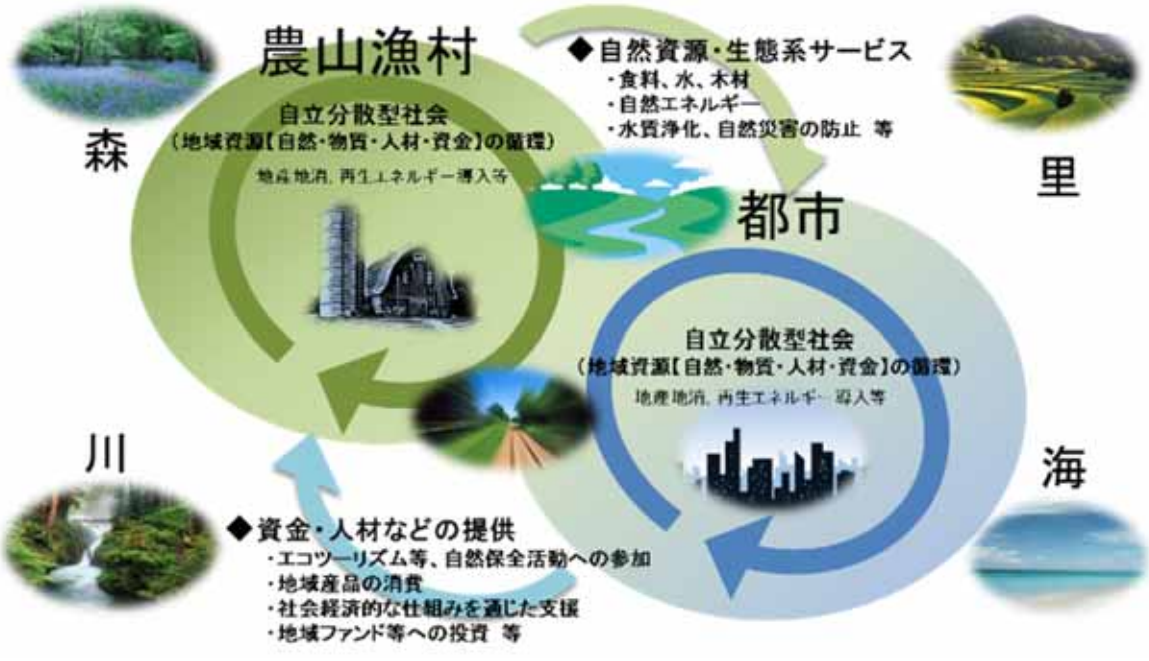
地域循環共生圏の創出に向けたESG地域金融の普及促進

環境省

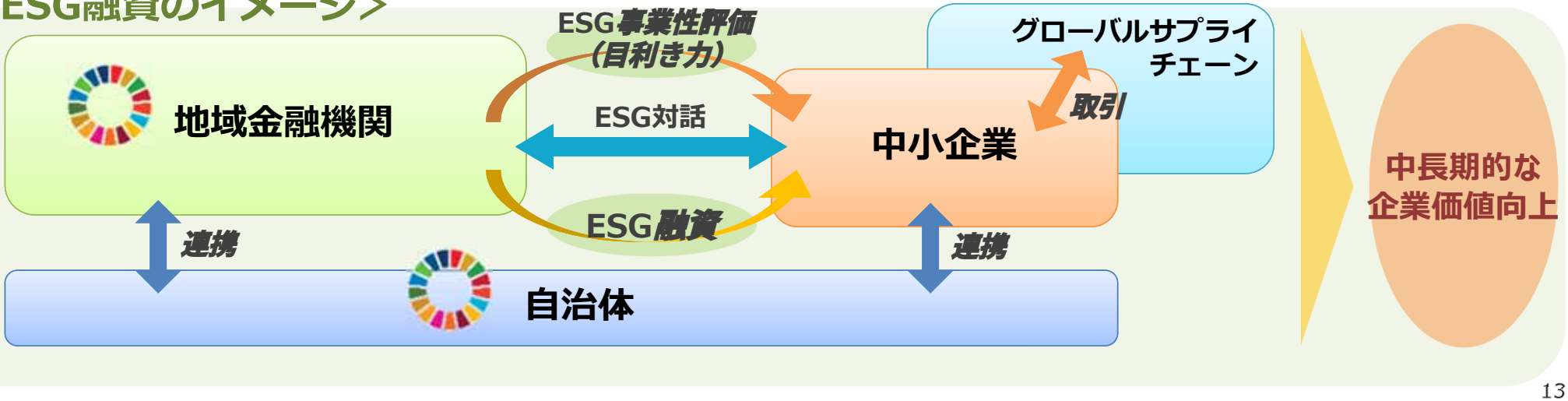
◆ 間接金融中心の我が国では**ESG融資**の拡大が重要
  ➢ 特に地域金融機関による**ESG地域金融**の普及を支援

- ✓ **ESG地域金融の実践へ**
- ✓ **具体的な取組の支援**
- ✓ **知見の整理**

地域循環共生圏



<ESG融資のイメージ>



地域循環共生圏とは・・・ローカルSDGs

環境省

各地域がその特性（課題・ニーズ）に応じ、**地域資源**を活かし、**自立・分散型の社会**を形成しつつ、近隣地域と補完し、支え合うことで創造。
環境・社会・経済の統合的課題解決により**脱炭素**と**SDGs**が実現した、魅力あふれる**地域社会像**。

- **「地域循環共生圏」創造の重要なポイント**
  - ✓ ①地域課題とニーズを適確に捉え、②対応する地域資源を発見・活用し、③縦割りを超えた新たなパートナーシップを形成、地域連携を深化させ、④新たな価値を創造し、地域経済循環を向上させる
  - ✓ 更に、「テクノロジー×デザイン」で課題を克服しつつ魅力を上げ、異分野との連携により「単一的取組から多面的取組（統合的課題解決）」に深化させていく

- **地域循環共生圏は、ローカルビジネスの創出や、地域経済の活性化・経済循環拡大にも大きく貢献**
- **Society5.0も活用し更なる異分野連携や統合的課題解決を地域ビジネスベースで進められるよう環境省もプレーヤーとして最大限活動**